



岩見沢校における特色ある大学教育について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9343

岩見沢校における特色ある大学教育について

文部科学省による「特色ある大学教育支援プログラム」（いわゆる大学教育のCOE）のいっそうの推進が、来年度も見込まれています。そこで、このプログラムへの申請も視野にいて、学生教育、地域貢献等を中心とした特色ある各種教育活動に関する本学の現状について共通理解を深めたく、各分校等のここ1～2年間の取り組み状況について文書で簡潔に報告されたい、という要請が本学学長からありました。以下は、関係委員会等の各教職員のご助力をいただきながら作成したメモですが、近年における岩見沢校のこの種の取り組みを全体的に概観するうえで有用かとも思われ、分校内外の参考に供します。

■ 学生教育とFD

- 「総合学習」に対応する多様な授業の取り組み（平成11年度～）；水稻・野菜・果物などの栽培と小動物飼育（総合教育）、蕎麦打ちの技の伝授と大学祭における公開（総合教育）、「いのちの学習」としての鶏のと殺・解体実習（新設教職科目「総合演習」）、手作り楽器の作成とミニコンサート・群読を通しての小学生との交流（総合教育）、冒険教育及びカヌー制作における教科専門（理論）との共同（体育及び理科）、等の体験的で文化的創造的な、総合的な学習実践と指導／教職専門科目「学校文化論」の開設による地域とのつながりの学び（民俗芸能の習得と地域の祭りへの参加）
- 「数学教育ゼミ」におけるウェブをベースにした教授（含市民公開）や学習材の開発を課題とした学生のメディアリテラシー・e教育リテラシーの育成への取り組み（数学）、大学祭のビデオ収録にもとづく学生文化の批判的検討及びリテラシー能力育成（総合教育）
- 地域の豊富な自然素材と環境を活用した「空間的環境構成」教育の多面的実践（美術）
- 「ボディーワーク」（心と体を一体化した体作り）の開設による「気づき」の拓き（教養）
- へき地・小規模校教育実習を含む多様な教育実習・観察参加の4年間をつうじた体系的整備（平成12年度～）／へき地・小規模校教育実習（平均1週間）の実施状況；平成11年度：5市町村10校74名／12年度：6市町村11校72名／13年度：6市町村12校80名／14年度：6市町村10校66名
- 学生の進路選択の拡大のための授業科目「進路開発」の開設と充実（平成12年度～）
- 教員としての実践的指導能力養成のためのフレンドシップ事業（平成9年度～）；岩見沢市の教育委員会・郷土科学館・各児童館・野鳥の会等との連携／運営協議会による例年4企画ほどの計画・実施（教育専門科目～教科専門科目）／報告書『教えること学ぶこと』の刊行（平成12年度～）／公開シンポジウムの開催（例年2月）
- 「福祉教育」の一環としての「車椅子バスケットボール」の実施（平成9年度～）；週1～2回／地域の車椅子バスケットボールクラブメンバー、本校教官・学生が参加／目的：学生の障害者理解および車椅子スポーツ技能習得・地域の障害者との交流・障害者スポーツ論への実技面での協力・総合的学習の時間における車椅子バスケットボール交流を通じた障害者理解教育の普及活動・地域貢献（障害当事者・子ども・学生・大学の相互交流として国際学会「アジア障害者体育スポーツ学会」でも注目）
- ボランティア実践をつうじた福祉教育（年間延べ100名の学生のボランティア派遣）
- 市民参加の「一日大学」をつうじた授業改善（平成13年度～）
- 聴覚障害をもつ学生のための授業改善及びこれによる一般的授業改善（平成14年度～）

■ 地域貢献

- 研究協力校制度にもとづく教育研究大会の開催（平成11年度～）；11年度～13年度岩見沢市立メープル小学校との共催／平成14年度岩見沢校主催
- 研究協力校制度にもとづく（主に）空知管内の小・中学校における共同研究（とくに教育実践研究、平成9年度～）；平成14年度は理科、体育、総合的学習、障害児教育
- 「子どもの教育と心理相談室」における子どもや保護者へのカウンセリング、教員へのコンサルテーション、教育委員会等関係機関との連携（平成11年度～）→平成11年（1月～12月）；一般市民（本人・保護者等）相談件数38件59名（448回）、学校・教育機関からの相談30件／平成12年；一般相談49件80名（657回）、教育関係相談21件／平成13年；一般相談51件67名（714回）、教育関係相談55件
- 「子育て教育講演会」、並びに学生による託児形式による遊びプログラム（「遊びの集い」）の同時開催（平成10年度～／学長裁量経費による支援）→講師；第1回：詫間武俊（東京国際大）／第2回：山中恒（作家）／第3回：藤原ますみ（国立精神神経研）／第4回：佐藤初女（森のイスキア）／第5回予定：武田信子（武蔵大）
- 地域福祉情報の市民への提供；岩見沢市の福祉情報の収集と市民への情報提供活動への協力／地域情報誌「暮らしやすい街を求めて」の発行（10年度～）／市民向け情報誌「こまったときのおたすけ情報」の発行／福祉ネットワークの形成（福祉教育研究室）
- 福祉教育研究室・学生係の連携による福祉・障害理解を促す試みとしての学生ボランティアコーディネート（平成6年～／年間延べ100名程度）；ボランティア情報の提示／その他のコーディネート→空知管内・札幌圏の福祉村・もなみ学園・育成会・各地障害者スポーツ行事・ろうあ協会・地域支援活動への派遣（ワークキャンプ・夏祭り・クリスマス会・学園祭・入浴会・支援活動補助）や障害児学級の教育支援・遠足補助、等
- 「一日大学」の開講（平成13年度～／含外国人講師）；13年度4講／14年度5講
- へき地教育研究施設を中心とした公開シンポジウムやワークショップの開催；
 - ・平成10年度：ワークショップ「教員養成とへき地・小規模校教育（実地研修のあり方）」／国際ワークショップ「環太平洋へき地教育と遠隔教育（アラスカ大学の取り組み）」／講演会「語るより歩む」を目標に40年（へき地複式校での実践）」
 - ・11年度：ワークショップ「教員養成とへき地・小規模校教育（若手の現状と課題）」
 - ・13年度：ワークショップ「へき地・小規模校の教育実践（地域の教育課題をふまえた学習活動）」／同「へき地・小規模校の教育実践（情報機器活用の学習活動）」
 - ・14年度：「へき地・複式教育における教員研修のあり方（教員養成大学の役割）」
- 子ども（主として小学生まで）を対象とした大学公開講座の実施（平成13年度～）

■ 学生指導

- 学生相談の充実（平成14年度）；「学生なんでも相談室」の開設→（4月～12月）49件39名の相談；「学生相談員」制度の充実と「学生なんでも相談窓口」の開設（当番相談員の毎日配置）／厚生補導施設の見直しによる学生の談話・休息施設（「居場所」）の整備／「院生（学校臨床心理）アドバイザー」の非常勤カウンセラー不在日への配置
- 精神的困難を抱える学生のための「メンタル・ケア・チーム」の設置（平成13年度～）
- 聴覚障害の学生の授業を保障するための「サポート委員会」の設置（平成14年度）
 - ・学生ノートテーカー集団の組織

（文責・主事）